

えここに報告する。

4. 肺動脈内に血栓を認め、CTEPHを疑われた肺高血圧を伴う関節リウマチの一例

(東京医科大学病院 循環器内科)

池田 和正、山下 淳、後藤 雅之
関谷 宗篤、斎藤 哲史、近森大志郎

(三井記念病院 リウマチ膠原病科)

吉田 雅伸

症例は70歳代前半女性。間質性肺炎(IP)を伴った関節リウマチ(RA)で他院にて治療されていた。労作時呼吸困難はあるもIPによるものとされ経過観察されていた。症状が悪化傾向のため、精査を行ったところKL6の上昇はないにも関わらず、心エコー図上右心負荷所見の悪化を認めた。CTではIPの増悪を認めなかったが、肺動脈内の壁在血栓を認めたため急性肺動脈血栓塞栓症をとして治療されたが改善なく、慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)を疑われて紹介となった。紹介後右心カテーテル検査を施行したところ、平均肺動脈圧は47 mmHg、肺血管抵抗880 dyne・sec・cm⁻⁵と高値であった。しかし、肺動脈造影ではCTEPHに特徴的な所見に乏しく、肺血流シンチでも楔状の集積欠損を認めなかった。以上よりCTEPHではなくRAに伴う肺高血圧症として治療を開始した。HOT導入の上、マシテンタン10 mg/day、タダラフィル40 mg/dayを投与したところ、心カテーテル検査上平均肺動脈圧は36 mmHg、肺血管抵抗456 dyne・sec・cm⁻⁵と低下し、自覚症状は若干改善したものの、6分間歩行距離は改善しなかった。本症例はIPの増悪所見がないにも関わらず、肺高血圧および自覚症状の悪化を来しており、RAに伴うニス分類I群の肺動脈性肺高血圧と考えられた。しかしながら肺高血圧治療薬投与により、肺動脈圧は低下したものの、自覚症状や運動耐容能の改善に乏しく、IPのための換気血流不均衡が関与した可能性があると考えられた。肺動脈内に血栓を認めてもCTEPHではなく、さらにはRAに関連する肺動脈性肺高血圧である可能性が示唆された稀な症例であり、文献的考察を含め本会に提示する。

5. コントラストエコーにて高度な心外シャントが確認された肝肺症候群疑いの一例

(東京医科大学 小児科学分野)

川崎 健太、呉 宗憲、武 義基
春日 晃子、堤 範音、三浦 太郎
西亦 繁雄、柏木 保代、河島 尚志

肝肺症候群とは門脈圧亢進症などの慢性肝疾患に続発する肺内血管の拡張によりA-aDO₂の開大を伴う低酸素血症を来す疾患概念である。病因論として門脈圧亢進による腸

内環境の変化から、呼応する形で肺内のNOが産生され肺血管が異常拡張する事が考えられているがその真偽は不明である。今回我々は、網膜剥離の手術目的に入院、偶発的に低酸素血症が発見され、精査の過程でA-aDO₂の開大と肺血流シンチにて44%のシャント、コントラストエコーにて高度な心外シャントを認めた14歳女児例を経験した。CTにて肝辺縁は萎縮、代償性の中心性肥大を認め門脈圧亢進を疑う初見を得た事から肝肺症候群を疑った。手指にはばち指を認め、学業成績が非常に悪い事から長期間にわたり見逃されていた可能性が推測される。未確立の疾患概念ながら臨床像の合う症例を経験したため、肝病理とエクソームの結果も含め文献的考察を加え報告する。

6. 著明に蛇行した内胸動脈グラフトが虚血に関与した可能性が示唆された2例

(戸田中央総合病院 心臓血管センター内科)

高鳥 仁孝、小堀 裕一、中山 雅文
上野 明彦、土方 伸浩、佐藤 秀明
木村 揚、湯原 幹夫、竹中 創
内山 隆史

(戸田中央病院 心臓血管センター外科)

宮川 弘之

ITAは術後遠隔期に90%以上の開存率が得られるとされ、LADへの吻合が生命予後を延長させる確率されたエビデンスが存在する。しかし、composite graftなどグラフトデザインによっては競合血流により心筋虚血を来す症例もあり、グラフトデザインに関する研究は多岐にわたる。今回、ITAの高度蛇行が心筋虚血に関与したと示唆される貴重な2症例を経験したので報告する。

【症例①】

69歳男性。1985年CABG施行(LITA to LAD、SVG to D1 to #12)。2012年LCx近位部にPCI施行。2013年、APの再燃を認めCAG施行。LITAの高度蛇行を認めるが、前回の造影所見と著変なし。内服強化するも自覚症状改善乏しく、SPECTで前側壁の虚血が証明された為、同部位への血行再建術を検討。心臓外科と相談しLADにPCI施行。術後、自覚症状の消失とSPECTで虚血所見の改善を認めた。

【症例②】

61歳男性。2009年、虚血性心不全の診断でCAG施行。結果、冠動脈多枝疾患の為、同年CABG施行。(LITA to LAD、SVG to OM to RCA) 2013年、労作時胸痛症状とSPECTで前側壁領域の心筋虚血を認めた為CAG施行。グラフトは良好な開存を認めるものの、LITAの蛇行を認めたため、FFR施行。結果、0.78と有意所見を認めた為、LADにPCI施行。